

## 令和7年度 千葉県高等学校新人体育大会サッカー大会女子の部 総評

### 【はじめに】

令和7年1月10日(土)、18日(日)、24日(土)、25日(日)、31日(土)の日程で千葉県高等学校新人体育大会サッカー大会女子の部が行われた。1,2年生での新チームとなった20チーム(単独チーム17チーム、合同チーム3チーム)が、千葉県の頂点を目指してトーナメント方式で試合を行った。

ベスト4進出校は暁星国際、幕張総合、流経大柏、市立船橋の4校で、準決勝が暁星国際高等学校、決勝・3位決定戦がフクダ電子スクエアにて行われた。優勝が幕張総合、準優勝が暁星国際、第3位が流経大柏という結果にて、令和7年度千葉県高等学校新人体育大会の幕を閉じた。ベスト4、ベスト8進出校は令和8年4月から行われる第20回千葉県高等学校総合体育大会にシードされる。

### 【今大会を振り返って】

今大会のベスト8は、公立2校(市立船橋・幕張総合)・私立6校(暁星国際・流経大柏・八千代松陰・拓大紅陵・千葉明德・クラーク記念国際)である。昨年度行われた選手権大会と同様の顔ぶれとなっており、昨年度から継続して力を付けてきた学校が更に力を伸ばし、勢いを持って勝ち上がったといえる。また準決勝は暁星国際対市立船橋、幕張総合対流経大柏と選手権大会と同じ組合せであり、選手権大会と同様の結果となったが、拮抗した見応えのある好ゲームであった。

準決勝・決勝・3位決定戦では攻撃面において、個々の技術と身体能力の高さをチーム攻撃に融合させ、多彩な攻撃の形から得点が生まれた。課題としては守備面において、攻から守への切り替え、ボールホルダーに対する球際での激しさがまだチームとして整備されておらず、守備面における今後のチームの成熟が期待される。その中でも優勝した幕張総合は選手一人ひとりの身体能力が高く、GKを中心とした守備意識の高さが優勝の決め手となった。惜しくも第2位となった暁星国際も新チームとなって日が浅い中、チームとしての戦い方が全体で共有できており、総合力の高さをうかがわせた。第3位となった流経大柏は個々の技術力が高く、華麗なパスワークからサイドの崩しを何度も披露した。

昨年度は全日本高等学校女子サッカー選手権大会で暁星国際が見事に第3位となり、改めて千葉県の女子サッカーのレベルの高さを全国に見せつけてくれた。その暁星国際をPK戦の末に下した幕張総合を中心に、一枠であるインターハイ予選への出場枠を掛けて、熾烈を極める争いとなるであろう。千葉県で頂点に立つことは容易ではなくなっており、次年度も更に激しい競争が予想される。

### 【大会運営について】

今大会は天候不良の影響もなく予定通りの日程で行うことができた。決勝・3位決定戦は多くの保護者や関係者の方々、卒業する3年生、中学生が見守る中で、見応えのある好ゲームを展開できたことは特筆に値する。大会中にはプレーでの接触からいくつかの事故が起こってしまったが、森委員長・各会場主任を中心とした迅速な対応で事なきを得た。これも大会の運営に携わっていただいた全ての方々のお力によるものである。皆様方に感謝の意を表すとともに、優勝した幕張総合の栄誉をたたえて、令和7年度千葉県高等学校新人体育大会サッカー大会女子の部の総評とさせていただきます。

千葉県高体連サッカー専門部女子部技術 小林貴幸(千葉経済大学附属高等学校)